

鑑賞のための語彙

鑑賞文などを書くためには、できるだけたくさん、説明のための言葉を知っておく必要があります。

五感を使って深く味わう言葉の例

- 視覚… 明るい、暗い、まぶしい、色鮮やかな、きれい、薄暗い、美しい、など
- 聴覚… 擬音語・擬声語(ザーザー、パンパンなど)、とどろく、響く、さざめく、など
- 嗅覚… いいにおい、かぐわしい、香ばしい、きな臭い、血なまぐさい、など
- 味覚… おいしい、まずい、甘い、辛い、しぶい、すっぱい、など
- 触覚… 冷たい、固い、ぬるい、やわらかい、ぬるい、ざらざらなど、

身に付けると...

作品をより深く鑑賞し、作品の価値を伝える文章を書くことができます。

やってみよう 「文例と解説」

〔文例〕

この歌は、緑の若葉の上に赤鉛筆の粉が散っていくのが愛しく思われるので、草の上に寝転びながら色鉛筆を削るのだという意味の短歌だ。作者が色鉛筆を書けるように削るといふ本来の目的を忘れて、色鉛筆の粉のやわらかさや若草との色の違いに心ひかれてしまい、いつまでも無心に削り続けていくようすがうかがえる。意味もないことに心ひかれて行動してしまうことが僕にもある。わけもなく夢中になってしまうのだ。作者に共感を覚えた。

〔解説〕

問題プリントの《鑑賞文》は、線部の大意を「線部の大意を、」でくくって口語訳風に書き、線部のように表現の特徴とそれから受ける感じを続けています。(網掛け)部の自分の感想にも歌の表現の特徴を交えて書き、自分にとってこの短歌がどういう価値のあるものであるかについても、具体的に「元気をもらえる」と書いています。

〔文例〕は、線部の大意を説明的に書いた後に、で困んだ情景や線部の表現の特徴を手掛かりに想像をふくらませていきます。それから自分がその歌をよんで自分に置き換えて考えたことを、部のように書き、最後に自分にとって作者に共感できる短歌であるとまとめて書いています。

このように、《鑑賞文》で示した鑑賞文と「文例」で示した鑑賞文では書き方が少し違います。目的や意図、さまざま条件(表現技法の多い少ないなど)によって変わります。目的や意図に応じた鑑賞文を書きましょう。

短歌や俳句の鑑賞文の書き方

短歌や俳句の鑑賞文には、次の三つのことを書きましよう。

情景とそこから想像したこと

例… 春の庭 あたたかな日ざし

白い冬 雪に閉ざされた街

言葉から作者の心情を想像したこと

例… 闘志いだきて 新たなことに挑戦

する気持ち

自分の感想

自分にとって、この短歌(俳句)がどう

いうものか

《参考にしよう》

「学習プリント(読むこと)」6

「短歌を味わう」

「学習プリント(読むこと)」4

「表現の工夫をとらえる」